

第3学年1組 道徳科学習指導案

令和3年1月29日(金) 第5校時
場 所 3年1組教室
児 童 数 男子11名 女子17名
授 業 者 教諭 池端 美希

- 1 主題名 正しいと思うことを行う【内容項目A-1 善悪の判断、自律、自由と責任】
- 2 本時のねらい 正しくないことをしている友達を止めることは必要なのかを考える活動を通して、自分が正しいと判断したことを行うこと、正しくないと思われることをしている人を止めることの難しさや大切さ、その良さについて気づき、正しいと判断したことは自信を持って行おうとする実践意欲と態度を育てる。
- 教材名 SL公園で (出典「新しい道徳3」東京書籍)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本項目は、物ごとの善悪についての的確に判断し、自ら正しいと信じることに従って主体的に行動すること、自由を大切にするとともに、それに伴う自律性や責任を自覚することに関する内容項目である。小学校3年生及び4年生の指導の観点は、「正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。」である。「善悪の判断、自律、自由と責任」は、低学年「よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。」で生まれ、高学年「自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。」へ発展していく。

中学年の段階においては、様々な学習や生活を通して、正しいことや正しくないことについての判断力が高まってくると同時に、正しいことと知りつつもそのことをなかなか実行できなかつたり、悪いことと知りながらも周囲に流されたり、自分の弱さに負けてしまったりすることもある。正しいことを行えない時の後ろめたさや、自ら信じることに従って正しいことを行った時の充実した気持ちを考え、正しいと判断したことは自信を持って行い、正しくないと判断したことは行わないようにする態度を育てる必要がある。正しくないと考えられることを人に進めないことはもとより、人から勧められた時にきっぱりと断ったり、正しくないと考えられることをしている人を止めたりできるように指導することが大切である。

また、中学年の段階においては、善悪の判断基準が「怒られてしまうから。」「親にダメだと言われているから。」などという他律的な理由であったり、「自分だけ正しいことをすると仲間外れにされてしまうから。」などの社会律的な理由であったりすることが多い。その場の状況や行為自体の是非を考えた自律的な理由に基づいた行動ができるようになることが望ましいと考えられる。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、3年生となり、自分で善悪の判断することやその判断の理由を徐々に考えられるようになってきた。日々の学校生活の中で、正しいと思うことを相手に伝えたり、クラス全体に呼び掛けたりする児童がおり、全員でよりよい方向へ伸びていこうとする前向きな雰囲気の中で学習に取り組んでいく姿が見られている。

しかし、良いことや悪いことを理解した上で、正しい選択をすることができない場面も時々見られる。後から話をし、「なぜいけないと思うか。」と問うと、頭の中では正しい判断ができているものの、友達に影響されてしまったり、断る勇気がなかったりして正しい選択ができなかったことが分かる。また、そのように分かっているのにできないという状況に陥ることは今後増えていくだろうことが予想される。更に、自分は正しくないことをしないが、周りに正しくないことをしている友達がいても我関せずという態度を取る児童もいる。

児童に行った意識調査では、次のような結果であった。(26名にアンケート実施)

(1) 仲良しの友達が近道をしようと誘ってきました。どうしますか。					
近道をする	2人	まよう	7人	ことわる	17人
【理由】					
○近道をする					
・近道をすると遊ぶ時間が多くなるから。					
・早く家に帰りたいから。					
○まよう					
・早く帰って遊びたいけど、きまりだからだめだし…。					
・早く遊べるけど近道はよくないから迷う。					
・早く遊びたいし、周りの友達がみんなそうするとやっているなら周りに合わせちゃう。					
・友達からの誘いを断ると、友達と仲が悪くなってしまうかもしれない。					
○ことわる					
・通学路を通ることは学校のきまりだから。					
・学校の先生からだめだよと言われているから。					
・いけないから。					
・他の人が見ていて、怒られてしまうかもしれないから。					
・普段通らない道ではあぶないかもしれないから。					
・道に迷ってしまうかもしれないし、家族を心配させてしまうから。					
(2) 友達によくないとわかっていることにさそわれたことはありますか。					
ある	4人	ない	22人		

児童のアンケート結果を見ると、迷う気持ちはあるものの近道をする方を選ぶ児童が多かった。しかし、断る理由や迷う理由を見ていくと、「きまりだからしない。」「怒られるからしない。」という判断基準で行動をしている児童がいる事がわかる。

また、よくないとわかっていることに誘われた経験はないという児童が多かったが、児童の学校生活の中では他の子に便乗してしまい正しい判断をしていない児童や、ついしてしまった…という場面も見られる。また、自分はしないが正しくないことをしている友達を止めることが出来ないという教材文の主人公と同じような児童の様子を見ることもある。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、気の合う仲間でSLが置いてある公園で遊んだ時に、SLに登ろうと友人に誘われ断るが、それを見ていた女の人に注意され、その人の言葉で自分の行動を振り返るという話である。展開場面では、SLに登ることに誘われて登らなかった主人公の気持ちを考えることで、してはいけないと判断した理由や根拠について考えさせると共に、「やめなよ」と言いたかったけど言えない主人公の姿から、仲の良い友達に誘われて揺れ動く気持ちに共感させたい。

主発問においては、「主人公は友達を止める必要があったのか。」ということを見聞に問い、「主人

公は友達を止めてあげればよかった。」という浅い理解から、止めるという行動は必要なのか、なぜ必要なのかという行動の根拠となる理由について考えさせることで深い価値理解につなげたい。更に、止めることは必要だと考えた児童に対して、どのような状況下にあっても止められるのかと問い返すことで、どのような状況であっても自己の善悪の判断に自信をもって行動する大切さに気付かせたい。

本学級の児童の実態を受け、主に次のことを中心に話し合うこととする。

①SLに登ることに誘われたときの主人公の心情

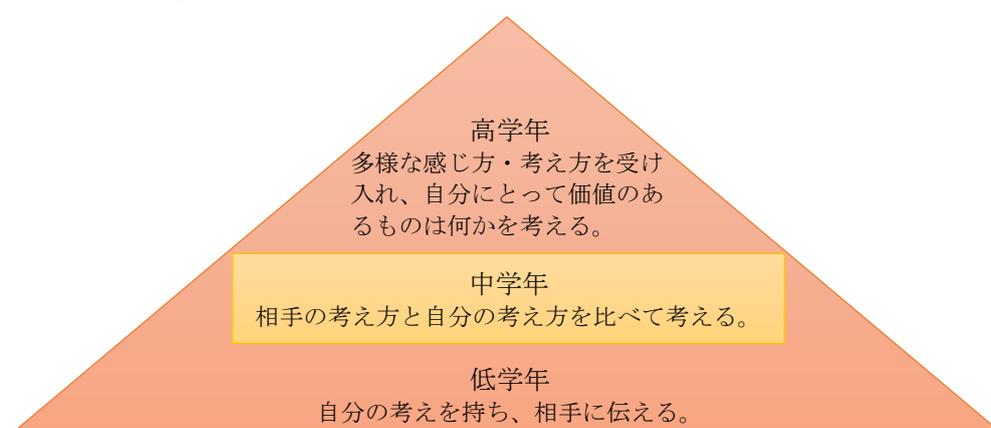
②正しくない友達を止めることは本当に必要なのか。必要だと思う理由は何か。

以上の理由から、本主題を設定した。

3 学校研究との関わり

【研究主題】 自己の生き方を見つめ、よりよく生きようとする心の力を育む道德教育
～考え・議論する道德を目指した授業づくりを中心に～

【目指す議論する姿】



上記の研究主題を具現化するために、以下の手立てを講じる。

【手立て】

①価値の方向付けをするためのアンケート調査の活用

「友達に正しくないことに誘われたらどうするか。」ということを事前にアンケートとして問い、その判断の理由を明らかにする。また、実施したアンケートを授業の導入部分に活用することで、価値の方向付けを図る。

②考えが深まる意図的な問い返し

児童の意見に対して、「なぜ？」と根拠を聞いたり、その児童が発言した理由を別の児童に問い返したりすることで、なぜ自分はそう考えたのか深く考えることになり、自分のこれまでの経験と照らし合わせて考えられるようにする。

また、展開部分の友達から正しくないことに誘われたの主人公の心情を考える発問では、最初は友達と同じように正しくないことをしなかった判断理由を考えさせるが、途中で止めたかったのに止められなかった主人公の心情を問う問い返しをすることで、正しい判断をしたものの自分の判断に自信を持てず友達を止めることにまで至らなかった主人公に共感させる。

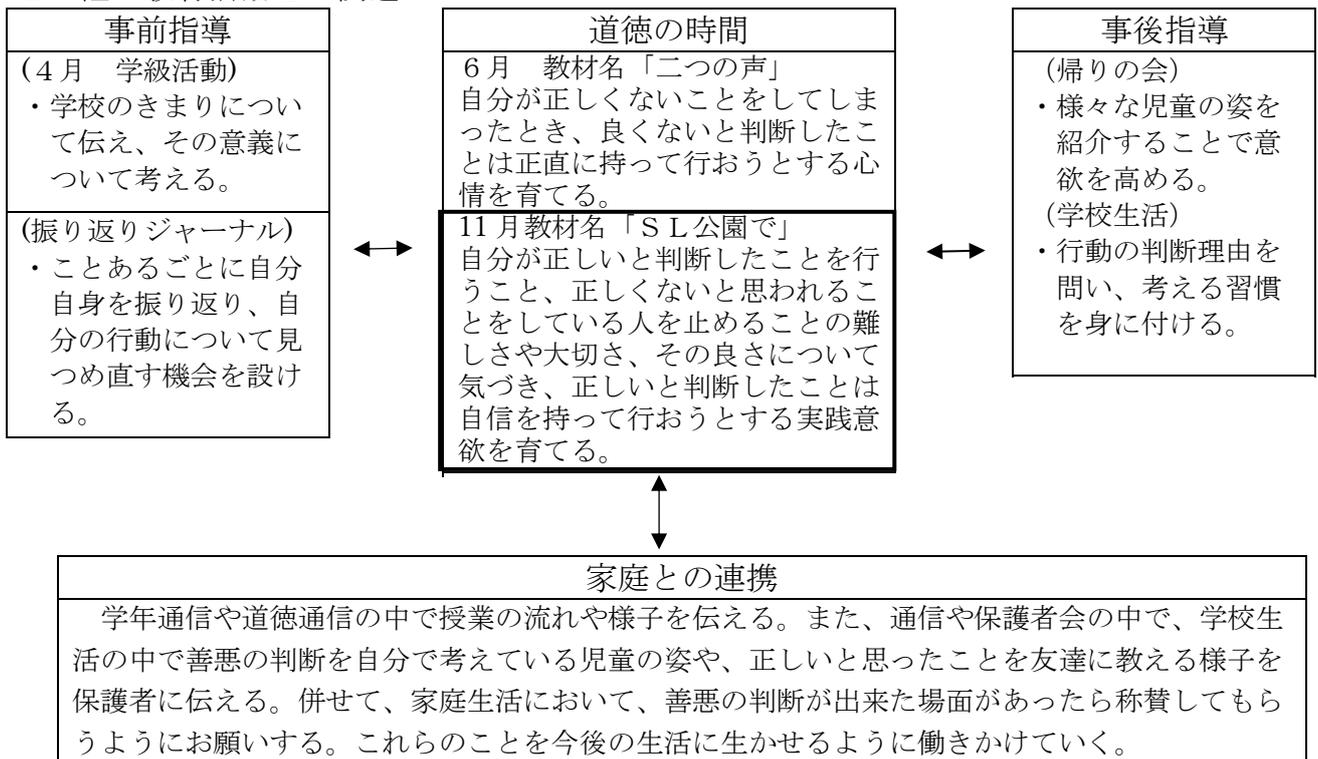
中心発問においても、どんな状況下であっても友達を止めるという考えさせるために、問い返しを用意し、児童により深く考えさせるようにする。

4 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	<p>1. アンケートを想起し、問題意識を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケートでは、断るという人が多かったね。それ以外に自分だったらこうするかも…ということはある？ 	<ul style="list-style-type: none"> 「やめなよ。」と言う。 止めたいとは思うけど、言えないかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ねらいとする道徳的価値への意識付けをするために、身近な事例を出し、どうするか考える。 事前アンケートでは項目がなかった「止める」という意見を出させ、友達を止めるということを意識させる。
<div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> 正しくないことをしている友達を止めることは本当に必要なのだろうか。 </div>			
展開	<p>2 教材「SL公園で」の読み聞かせを聞き、教材文について考える。</p> <div data-bbox="357 801 1043 958" style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 【場面の確認】 しんご、つよし、友達→仲良し 学校から帰ったらいつもSL公園で遊ぶ。 SL公園には大きなSLの車両が置いてある。 </div> <p>(1) 主人公がSLに登ろうとしながったのはなぜだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「やめなよ」と言いたかったけど言えなかったのはどうしてでしょうか。 <p>(2) <u>主人公は友達を止める必要があったのでしょうか。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> さくがあるから。 危ないと思ったから。 登って遊ぶのはよくないことだと思ったから。 見ていた人に怒られたくないから。 誰かに見られていて先生や親に告げ口されたいやだ。 自分は悪いことをしたくない。 登ると危ないし、ケガをしたら大変。 仲良しの友達だから言いにくい。 友達の楽しいという気持ちをじゃましてしまうかもしれない。 仲が悪くなったり、遊びに誘ってもらえなくなったりしたらいやだから。 声をかける勇気が出なかった。 <p>(必要があった)</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達がけがをしてしまうから。友達にけがをしてほしくない。 自分が悪い事をしていなくても、友達が悪いことをすることになってしまって、友達が怒られてしまうから。 友達に悪いことをしてほしくない 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単に登場人物やあらすじについて確認してから範読する。 主人公の気持ちを考えながら範読を聞けるような言葉がけをする。 いけないと分かっていることに誘われた時の主人公の心情を考えさせる。 頭の中では正しい判断をしながらも、様々な理由で行動に移すことを迷っている主人公の気持ちに共感させる。 断った時の判断基準に目を向けさせ、児童の中にある他律的な考えや自律的な考えを引き出す。 正しい判断をしたこととお姉さんに注意されてしまったことを対比して押さえる。 ワークシートを配付し、考えをまとめるために書いても良いことを伝える。 ☆自分が正しいと判断したことを行うこと、正しくないとされることをしている人を止めることの難しさや大切さ、その良

	<ul style="list-style-type: none"> ・相手が誰であっても止められますか。 ・友達ではなくても言える？ ・相手が「止めてほしい」と思っていないか？ ・相手が何と言おうと？ 	<p>いから。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分は正しいことをしていても、他の人に迷惑がかかる。 ・みんなが正しいことをしたら、みんなが楽しく遊べる。 ・自分が止めずに友達がけがをしたらきっと嫌な気持ちになる。 <ul style="list-style-type: none"> ・関係がこわれてしまうのは怖い…。でも正しくないことをしてほしくない。 ・仲が良くても良くなくても、正しくないことは相手のために止めてあげたい。 ・正しくないことだから、はっきりと言う。 	<p>さについて様々な角度から考え、話し合っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主人公の葛藤を想起させ、自分の事として考えさせる。 ・様々な角度から考えられるように問い返しの発問を用意し、話し合いを深めていく。
終末	<p>4 自己を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の授業を通して、どんなことを考えましたか。これまでの自分はどうでしたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで自分は悪いことはしないようにしてきたけど、友達にもそれを言うことはできなかった。自分が悪いことをしたわけではなかったけど、心がモヤモヤしたことがあった。 ・悪いことに誘われた時、断ることはできていたと思うけど、悪いことをしようとしている友達を止めるということまで考えなかった。でも、友達だからこそ止めてあげなきゃいけなかったと思う。 	<p>☆これまでの自分を振り返りながら、正しいと判断したことは自身を持って行うことについて自分なりに考え、深めている。</p>

5 他の教育活動との関連



6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

自分が正しいと判断したことを行うこと、正しくないと思われることをしている人を止めることの難しさや大切さ、その良さについて様々な角度から考え、話し合っている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

これまでの自分を振り返りながら、正しいと判断したことは自信を持って行うことについて自分なりに考え、深めている。

7 板書計画

よくないことにさせられたら…

- ・ことわる
- ・ついいっしょにやってしまうかも
- ・「やめなよ」と止める

正しくないことをしている友だちを止めることは本当にひつようなのだろうか。

SL公園で

SL挿絵

しんご

つよし

友だち

○登ろうとしなかったのはなぜか。
さくがあるから。 SLに乗るのは悪いこと
落ちたらあぶない けがしたら大へん
告げ口されておこられるかも

言ったかっただけと言えなかった

みんなを見つめるしんご

なかよしの友だちに言いにくい。
友だちの楽しい気持ちをじゃましてしまう…
ゆう気が出ない…
もう遊べなくなってしまったらどうしよう

正しいこと

女の人

止められたらよかったのね。

SLには乗らなかった

◎友だちを止めることは本当にひつよう？

- ・悪いことをしてほしくない。
- ・友だちがけがをしてしまうのはいやだ。
- ・自分もみんなも正しいことをすると、楽しくなる。
- ・心がモヤモヤしたと思う

相手がだれでも

何と言われても